

平成28年第4回横手市議会12月定例会 一 般 質 問 要 旨

■ 一般質問の日程

平成28年12月5日（月）～7日（水） 本会議

※午前10時、開会の予定です。

■ 一般質問の順序

期日	順番	議席番号	議 員 名	頁
5日	1	9番	播磨博一 議員	1
	2	14番	菅原正志 議員	2
	3	15番	土田祐輝 議員	3
	4	21番	高橋聖悟 議員	4
	5	3番	立身万千子 議員	5
6日	6	1番	高橋和樹 議員	6
	7	7番	土田百合子 議員	7
	8	12番	奥山豊和 議員	9
	9	13番	本間利博 議員	10
	10	11番	加藤勝義 議員	11
7日	11	26番	佐々木 誠 議員	12
	12	10番	青山 豊 議員	13
	13	24番	齋藤光司 議員	14
	14	20番	佐藤誠洋 議員	16
	15	22番	木村清貴 議員	17

1. 【9番 播磨 博一 議員】

1. 東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて

- 1) ホストタウンとして登録されたが、その目的と今後の活動の展開を伺う。
- 2) 選手村に横手産農産物（花を含む）を提供することについて検討してみてもどうか。

2. 財産経営推進計画（FM計画）と公共用地の借地契約の関係について

- 1) 借地の現状としてすべて有効に活用されているか。
- 2) FM計画との関連で今後、現状維持、買取り、返還などの対応が予想されるが、その見通しについて伺う。
- 3) 借地契約を続ける場合、地代など契約内容の見直しをどのように進めるのか。

3. 食品ロスの対策について

- 1) 食品ロスの問題が先進国間で共通の課題となっている。国においても農水省など関係省庁が連携して動き出している中で、食糧生産基地の横手市としては取り組みの姿勢が弱いと感じるがどのように考えているか。
- 2) 食育の中で食品ロスの観点から指導されていることはあるのか。「もったいない」ということと合わせて「食事は命をいただく、その命に感謝する心を養う」ことも必要と思うがどうか。
- 3) フードバンクへの取り組みを進めるべきと考えるがどうか。

2. 【14番 菅原 正志 議員】

1. 新たな地域づくり組織の方向性について

1) 地区交流センター化に関して。

① 地区交流センター化の意義と、センター化をして何が変わるのか伺う。
(条例、財政、職員数、市民の利便性等)

② 地区交流センター化を実施する地域に対する支援体制を伺う。

③ 地区交流センター化が行われない地域への対応を伺う。

2) 地区会議の今後のあり方について伺う。

3) 地域が主体的に行う地域づくりのためには、地域局や地区交流センターへの自由度の高い予算配分が必要と考える。地域づくり協議会や地区会議予算とのバランスや配分について伺う。

2. 洋式トイレの設置推進について

1) 公共施設での温水洗浄便座付洋式トイレへの変更や設置を加速させるべきと考える。市内各庁舎、公民館、学校等の洋式トイレの現状と今後の対応について伺う。

3. Y8サミット創快横手市議会を終えて

1) 中学生からの質問に対する当局答弁の実行性について伺う。

3. 【15番 土田 祐輝 議員】

1. 新年度予算編成について

- 1) まちづくり市民アンケートの結果を見ると、重要度が高いと判断されたのは「雪対策」「雇用創出」「子育て支援」が上位である。そこで、今回のアンケート結果をどのように分析されたのか見解を伺う。
- 2) 厳しい財政運営の中、選択と集中によって効果が発揮できる予算編成を進めるようだが、所信説明で示した3つの重点施策を具現化させる具体策について伺う。
- 3) 選択と集中は物、金だけでなく、人材もその範疇に入ると思う。従って、トップの明確なビジョンが求められる。総合計画を指針としながら、市民アンケートを民意としても最後は市長の判断である。これまでの3年を振り返りながら当市の将来像を伺う。

2. 高齢者に優しい公共交通のあり方について

- 1) デマンド交通、循環バスの運行状況とその課題について伺う。
- 2) デマンドタクシーの利用者の大半が高齢者であり、その7割が通院の手段として使用しているにもかかわらず、直接医療機関まで行けないエリアもある。運行から3年経過し、利便性を考えると、そろそろ直接、バスゾーンへの乗り入れを検討すべきだと思いが見解を伺う。
- 3) これらを運営している公共交通活性化協議会と市との関わり方を伺う。また、負担金の今後の見通しを伺う。

3. カメムシ対策について

- 1) 今年は一等米比率が92%と品質向上が図られているが、まだまだカメムシ被害に悩まされている農家が多い。防除体系の見直しはもちろんだが、色彩選別機の導入が大きな効果を発揮すると思う。市独自に呼び水として補助金の新設は考えられないか伺う。

4. 【21番 高橋 聖悟 議員】

1. 増田まんが美術館について

- 1) 増田まんが美術館整備事業の今後の進め方について伺う。
- 2) 完成後の維持管理費、経済効果について伺う。

2. 財産経営推進計画（FM計画）のローリングについて

- 1) 市の掲げている理念、構想を鑑み、屋外スポーツ施設のローリングを。
- 2) 市の掲げている理念、構想、そして教育の充実を鑑み、学校教育施設もローリングを。
- 3) 広域連携によるFM計画を模索すべきではないか。

3. 県の高校再編について

- 1) 市長は高校再編についてどう思っているか。

4. 地域拠点施設整備の考え方について

- 1) 地域拠点施設整備交付金で地域の拠点を整備するという話の前に、全体的な拠点整備計画、方針を出すべきではないか。

5. 【3番 立身 万千子 議員】

1. 人口減少克服の方策について

1) 「日本女性会議 2016 秋田」での県南実行委員会による第5分科会で指摘された、秋田の精神風土と若者の地域定着策について。

① 第5分科会に臨む準備の一環として実施された、県内全市町村長のアンケート結果によれば、どの市町村長も「若者の地域定着」を人口減少対策のトップに掲げている。一方で「男は一家の大黒柱」「家事育児は女性の役割」といった精神風土の根強さも認めていることが発表された。

こうした精神風土を残したままでの、若者の地域定着策では成果を得ることが難しいと考えるが、市長が来年度も重点政策として掲げられた「人口減少に歯止めをかける」政策のこれまでの進捗状況はどうか。

② 前述のような、この地域における精神風土への働きかけも含め、新年度に向けて総合的な男女共同参画を担う部署の設置を問う。

2. TPP問題に対する市長の姿勢について

1) TPPを巡る状況が目まぐるしく動いている。市長は以前、故齊藤勇議員の一般質問に対し、「国を信じたい」と答弁された。現在の考えを伺う。

2) 米国次期大統領は「TPPからの撤退」を表明したが、日米の二国間自由貿易協定（FTA）締結の動きが強くなる。いずれにしても地方自治体として住民を守るには、現在の企業振興条例を拡充し、地元の中小農業・工業・商業も対象とすること、公契約条例の制定が必要になると思うが、市長の考えを伺う。

7. 【7番 土田 百合子 議員】

1. 家庭教育支援について

- 1) 不登校など深刻化した問題への支援は当然必要だが、「予防型支援」に対しても目を向ける必要があると思われる。このことについて、当市の取り組みを伺う。
- 2) 家庭教育支援の参考事例として、「早寝早起き朝ごはん」の推進に市独自のシンボルマークを使った望ましい生活習慣を啓発するポスターやリーフレット等の作成（北海道釧路市）、携帯電話のメールを活用した家庭教育手帳の配信（香川県）、子育て支援課を教育委員会に設置（京都府舞鶴市）などがある。当市における家庭教育支援の方針について伺う。
- 3) 教育基本法の改正を受けて、家庭教育支援の重要性が唱えられるようになり、家庭教育支援条例を制定し、取り組む自治体がある。当市でも「家庭教育支援条例」を制定し、取り組むべきであると考えているが、市長と教育長の見解を伺う。

2. 食品ロスの削減推進と「フードバンク」支援活動について

- 1) 学校や幼稚園、保育所などの教育施設や児童福祉施設における食品ロス削減のための啓発の推進について伺う。
- 2) 家庭における食品在庫の適切な管理や食材の有効活用の取り組みをはじめ、会食や宴会での食べ残しを減らすために「残さず食べる運動」や「持ち帰る運動」、乾杯後の30分と終了前の10分間は自席で食事を楽しむ「30・10運動」を進めている自治体もある。当市の考えについて伺う。
- 3) 企業や個人から寄付された食品を生活困窮者に届ける「フードバンク」活動の一環として、秋田市や潟上市では食品回収ボックスが設置されている。当市の考えについて伺う。

3. 公立保育所民営化計画について

- 1) 十文字保育所が3年後には完全民営化になることについて不安な声が届いている。今後の十文字保育所の民営化計画について伺う。

4. 生涯学習活動の推進について

- 1) 小学生を対象とした陶芸教室が行われ、多くの参加があったと聞いている。今後の継続について伺う。

5. 市民要望について

- 1) 増田町荻袋地区（荻袋、安養寺、大沢、熊淵）4集落の上水道整備計画について伺う。
- 2) 西成瀬地域センターでは、毎年、数回にわたり施設で使用する水が不足するため、利用者に大変迷惑がかかっている状況にある。災害時の避難場所でもあることから早急な上水道整備をお願いしたい。

8. 【12番 奥山 豊和 議員】

1. 「マンガ原画と増田の町並みを活かした交流人口拡大プロジェクト」 (秋田県市町村未来づくり協働プログラム) について

「増田庁舎オープン・リノベーション事業」における様々な経験をどう活かし、どのようにして秋田県ならびに横手市全体の未来づくりに貢献しながら、地方創生へと結びつけていくのか。以下、6点について伺う。

- 1) 増田まんが美術館改修に係る総事業費の見込みと今後のスケジュールについて。
- 2) 庁内における「部局横断」の取り組み状況と外部との連携・協働のあり方について。
- 3) 多くの方々に、施設の価値やマンガに対する理解を深めて頂けるような取り組みと、関連事業も含めた市民に対する「丁寧な説明」の仕方について。
- 4) マンガ文化の担い手となる次世代の育成について。
- 5) 横手版DMOにおける位置づけの見通しについて。
- 6) クールジャパンとしての海外への売り込みを含めた情報発信における具体的戦略について。

9. 【13番 本間 利博 議員】

1. 共助組織について

- 1) 地区活動としての共助組織活動についての考えを伺う。

- 2) 共助組織への支援について伺う。

2. 創作子ども歌舞伎上演について

- 1) 創作子ども歌舞伎上演の目的について伺う。

- 2) 継続について伺う。

10.【11番 加藤 勝義 議員】

1. 組織機構について

- 1) 第2次定員適正化計画を推進するため、本庁業務や地域局の役割をさらに明確化・精査をして、組織機構の見直しを進めていくとしている中で、地域局の将来像を伺う。
- 2) 生涯学習やスポーツ振興の果たす役割が、まちづくりなどあらゆる分野に広がり、所管を市長部局のまちづくり推進部に移行したが、教育委員会部局との連携なくしては成り立たない。移行した成果を市長部局と教育委員会部局のそれぞれに伺う。
- 3) 現在、地区交流センター化に向け試行運営されている14館について、市長の所信説明に「地域の結びつきの強化、防災意識の高揚が図られた」など確実に効果が上がっている旨の説明があった。具体的な成果事例を伺う。

2. 市民への情報発信について

- 1) 第2次行財政改革大綱振り返りの中で、市報よこてを月1回発行に向けての協議を掲げている。月1回の発行を検討していく際にどこに重点を置き、どんな紙面づくりを考えるのか伺う。
- 2) 月1回発行の協議理由の1つに、地域版を発行していることも挙げられている。しかし、地域版のほか公民館・生涯学習センターなどからも地域情報が発行されている。これは、発行回数や内容、財源もさまざまである。市民が平等に身近な情報を得られるよう、この情報版も統一すべきと思うが所見を伺う。

11. 【26番 佐々木 誠 議員】

1. 道の駅十文字について

- 1) 建設以来 10 年余り経過した施設の使い勝手を含めた現状の評価と、今後進んでいこうとしている道の駅の姿をどのように描いているのか伺う。

- 2) 国土交通省が地方創生の核となる優れた取り組みをしている道の駅を選定し、重点的に応援している。重点「道の駅」についての市の取り組みについて伺う。

2. 予防接種事業について

- 1) 副作用と思われる症状で苦しんでいる方々へ医療費の支援をするべきと思うが見解を伺う。

12.【10番 青山 豊 議員】

1. 農産物のブランド化について

- 1) 市長が掲げる政策の柱のひとつ、「農地山林をフル活用」の中心である「農産物のブランド化」。この事業における市長の意気込みと成功への見通しを伺う。

13. 【24番 齋藤 光司 議員】

1. 公共温泉施設の在り方・再編方針について

- 1) 平成 28 年 3 月の再編実施計画では、施設毎に譲渡条件を設定することになっている。前回行われた事業アイデア募集の結果も踏まえてどこまで進んでいるのか。また、平成 29 年 9 月まで可能な施設を順次譲渡することが明示されているが、具体的なスケジュールも含め市としての動きが見えてこない。明示された期日どおりのスケジュールを進めるとなると、市としての譲渡条件の判断、決断がなされていなければならない時期にある。進捗状況も踏まえて、改めて 9 施設それぞれの譲渡条件を明示されたい。
- 2) 施設の有償譲渡の場合、かつての特養の施設譲渡時に心配されたような国・県への補助金の返還、起債の一括償還の心配はないのか。また、譲渡先法人等の選択に係る市の判断基準の中で、運転資金も含めた財務力、経営能力の見極めが譲渡施設の存続では特に重要と思われるが、市としてどう担保をとっていくのか伺う。また、今の経営形態は、直営と指定管理の 2 通りの経営が行われているが、譲渡にあたっては現在の指定管理者に優先性を持たせていくのか併せて伺う。
- 3) 9 月定例会中に各施設の敷地に関する課題が提示された中で、課題解消にかかる期間が 9 施設でそれぞれ 3 か月から 1 年以上との説明があった。このことによって、当初の再編計画への影響をどうとらえているか。また、施設としての統廃合の順位付けがどうなるのか伺う。
- 4) 施設の存廃に関しては、施設運営に関する各種数値基準を設定し、その実践と民間事業者を含めた施設配置バランス、政策上の新たな位置付けに基づく必要性と財政的見地を総合的に勘案しながら存廃を決定すると示しているが、利用者、地域住民にとっては何をもって自分たちの大切な財産である温泉施設の存廃が決定されるのか理解が進んでいない状況にある。利用者、地域住民に対して市としての広報、公聴、情報開示が具体的にどのような形で行われてきたのか。また、そのことに対する市としての自己判断分析をどうしているのか伺う。市として判断する存廃の期限が平成 30 年 5 月末、実施時期が同年 9 月末と明示されているが、この期日については、変更することのない不退転の決意を持った提示なのか伺う。そして、存続する必須条件としての各施設の数字を利用者、地域住民にはっきりと示すことが市としての施設再編の第一歩であろうし、また、示すだけでなく、存廃の基準としての数字への理解を進め、

そして、結果を納得してもらうことが何より大事な作業になると思う。基本的にどのような形での進め方を考えているか伺う。

- 5) 9施設のうちの一つ、えがおの丘に関して体育施設として存続の陳情が出されている。温泉施設としてのとらえ方も出来るが、陳情書にもあるとおり、唯一9施設の中でプールが併設され、住民福祉の向上、健康増進施設、体育施設としても認め得る施設でもある。市が提示をした公共施設の在り方・再編方針によると、温泉入浴、宿泊、宴会、レストラン等のサービスは、すべての住民が生活をする上で必要不可欠なものではないという理由で、行政サービスの本質論からは下位に位置づけられると自らが再編方針で示している。その中で、行政関与の妥当性から見る比較論では、なぜ「雄川荘」に近接する「えがおの丘」が平成29年3月末の圧縮対象施設なのか理解できない。利用者数（特に地元利用者数）、年度毎の財政負担額、平成28年からの投資経費見込みの数字からしても合理的な説明がつかない。最初から「えがおの丘」廃止ありきの温泉施設の統廃合計画だったのではないか。そのことに関しての経緯と考え方を伺う。

また、民間として力を出しやすい施設は雄川荘である。えがおの丘の客数を減らした要因の一つは、市が雄川荘の日帰り施設を充実させたことであり、ある意味、施策としての整合性のなさが生んだものである。平成29年3月においての「えがおの丘」廃止ではなく、平成29年3月までに雄川荘の民間譲渡を進めることがあの場所に2施設を存続させ得る唯一の方法であり、合理的手法でもあると考えるが所見を伺う。

14. 【20番 佐藤 誠洋 議員】

1. 市直営特別養護老人ホーム「白寿園」の運営方針について

- 1) 近年、白寿園では入所待機者が大勢いるにもかかわらず、介護職員不足でベッド稼働率が低い状態が続き、赤字経営となっているが、市長はこれまでどのように運営に関わり、政策を練り、指示してきたのか伺う。

- 2) 白寿園は、横手市保健医療福祉総合施設「健康の丘おおもり」を構成する施設の1つである。市長はこれまで「健康の丘おおもり」の管理者と運営についてどのように関わり、協議をし、政策に反映してきたのか伺う。

- 3) 白寿園の今後の運営方針、すなわち直営を続けるのか、指定管理等を行い、民間移行するのか伺う。

15. 【22番 木村 清貴 議員】

1. 市長の政治姿勢について

- 1) 9月23日提出、即日可決された平成28年度一般会計補正予算（第3号）の中で、全国消防大会に出場する隊員の家族の旅費を最終的に支出しなかった理由を伺う。

平成28年12月定例会日程【会期17日間】

- **本会議** 午前10時開会予定です・傍聴できます ——
- ◇11月28日(月) 〔開会〕市長所信説明・議案上程 ほか
 - ◇12月 5日(月) 一般質問
 - ◇12月 6日(火) 一般質問
 - ◇12月 7日(水) 一般質問
 - ◇12月14日(水) 委員長報告 ほか 〔閉会〕

- **委員会** ——
- ◇11月28日(月) 一般会計予算特別委員会
 - ◇12月 8日(木)～9日(金) 常任委員会
 - ◇12月14日(水) 一般会計予算特別委員会

※進行状況により、日程は変更になる場合があります。

横手市のホームページにあります、
議会のコーナーをクリックしてください。
本会議録画・会議記録・市議会だよりを
いつでもご覧いただけます。

◇ 横手市議会事務局 ◇

〒013-8601 横手市中央町8番2号（横手市役所 本庁舎 6階）
TEL：0182-32-2535 FAX：0182-32-6539
E-mail：gikai@city.yokote.lg.jp

横手市議会マスコットキャラクター
“しらとり議員”

